

FIVE VALUE ASSET

Monthly Newsletter

5 バリュー通信 Vol.24

Date of issue: 2026.10.15

平素よりお世話になっております。5 バリューアセットでございます。今月もマンスリーレターとして5 バリュー通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1 回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

Interview メンバーの言葉



ファイナンシャルアドバイザー

山本 裕也

先日、娘の「ブドウ狩りをしてみたい」という一言をきっかけに、家族で山梨へ出かけました。実際に農園に足を運ぶと、実の大きさやつき方は様々で、一部には傷んだ実が混ざっていたり、摘み取るとすぐに落ちてしまったりと、自然ならではの姿がありました。そして現地で味わう採りたてのブドウの味はいは、スーパーで買うものとは一味違いました。

普段、店頭に並ぶ綺麗で美味しいブドウを何気なく手にしていますが、その一房の陰には、並々ならぬ手間と農家の方々の丹精が込められているのではないかと感じました。やはり現地で直接触れ、体験することの価値は計り知れません。

この気づきは、私たちのウェルスマネジメントの仕事にも通じます。AI をはじめとするデジタル化が進み、効率性が重視される時代だからこそ、お客様と直接お会いし、対話を重ねるプロセスにこそ本質的な意義があると考えております。

画面越しでは伝わらないお客様の思いや背景を深く理解し、丹精を込めて資産を守り育てる姿勢。この対面による信頼関係の構築こそが、私たちが最も大切にすべき本質であると信じております。

Topics 今月のトピックス



10 Oct. 2026

- Book Review
- Chiyoda City, Uchisaiwaicho
- Seminar Report
- Relocation notice



- ・ 守屋 洋『陽明学 生き方の極意』
- ・ 内幸町
- ・ 幸福とは何か？一福田恆存の人間観と幸福観（第12回オフサイトセミナー）
- ・ 東京オフィス移転のお知らせ

Book Review 守屋 洋『陽明学 生き方の極意』



守屋 洋『陽明学 生き方の極意』(1996, PHP 研究所)

守屋 洋：昭和 7 年、宮城県生まれ。東京都立大学中国文学科修士課程修了。中国古典に精通する第一人者として、著述・講演などで活躍。研究のための学問ではなく、現代社会の中で中国古典の知恵がどう生かされているのかを語り、難解になりがちな中国古典を平易な語り口でわかりやすく説く。SBI 大学院で経営者・リーダー向けに中国古典の講義を続けるなど、広く支持されている。

(東洋経済オンライン 著者プロフィールより引用)

前近代の日本における儒教といえば、江戸時代の封建制維持や道徳的基盤を支え、年功序列や年長者への「礼」や敬意を払う「長幼の序」や主君に対する「忠」の重視など、特に韓国や中国の社会規範や文化において今なお色濃き影響を残す朱子学のイメージが強くあると思われます。また、儒教＝朱子学の教えという認識も根強くあります。

国内での陽明学の開祖である中江藤樹(1608-1648)の活躍以降、日本では江戸後期にかけて、王陽明(1472-1528)が唱えた「知行合一」(知識と行動は同様にあるべき)や「事上磨錬」(生活・仕事の中で良知を磨く)、「致良知」(天との素質である「良知」の発現)といった実践哲学として知られる陽明学が、朱子学に代わって広まりました。

内村鑑三が『代表的日本人』(1908)で中江と共に取り上げた上杉鷹山(1751-1822)、二宮尊徳(1787-1856)、西郷隆盛(1828-1877)らも陽明学の影響を強く受けており、同書で語られた人物像や功績の数々に「知行合一」、「事上磨錬」、「良知即天理」(「良知」＝善悪の判断は天の理/天命と捉える)の実践が色濃く見いだせます。

朱子学への反動としての陽明学が広まる一方、明治維新後は国家観の形成や教育思想において朱子学が内在化され、後世では年功や忠君の思想、知先行後(暗記的勉強の重視)などが儒教の教えと見なされることが多く、『陽明学 生き方の極意』にも、「陽明学は儒教なのです。主流が傍流かは、見方によって分かれるかもしれませんが、れっきとした儒教であることは間違いありません。」(14 頁)や「今、私どもが儒教だと言っているのは。ほとんどの場合、朱子学をさしているということです。中国大陸、朝鮮半島、日本列島、みな然りです。」(19 頁)という記述があります。

日本における儒教の影響は朱子学由来の物が顕著ですが、日本の精神(自然観、利他、「私」を前に出さない謙虚な姿勢)には陽明学からの影響も強く見られます。陽明学に関心を持ったのは『代表的日本人』の影響で、比較的読みやすい入門書を探す中で、守屋 洋さんの『陽明学 生き方の極意』を見つけました。刊行は 1996 年で、紙版は絶版のため電子書籍(Kindle 版)で読むことができ、26 年 9 月末現在でも中国思想の中世近代でランキング 1 位を維持しています。

本書は陽明学・王陽明についての概説や、『伝習録』(王陽明が弟子に語った内容を編んだもの)から、陽明学の核の部分を抜粋して解説を加えた内容です。第 1 章では陽明学の成り立ちとして儒教との関係性や王陽明の陽明学を唱えた背景などが簡潔にまとめられるなど、陽明学に関心を持つ初学者向けの内容で、第 6 章「王陽明語録～混迷の時代を拓く～」では「修養編」と「実践編」として王陽明の格言が 2 系統に分類され、書き下し文と解説が掲載されています。

「人生の大病はただこれ一字の傲なり。謙は衆善の基にして、傲は衆悪の魁なり。」(謙虚は善の基で、傲慢は悪の始まりである)という言葉など、「王陽明語録」には現在にも通ずるものが多く掲載され、陽明学の実践哲学は多くの点で日々の生活や修養のあり方を見直す契機にもなります。また、「経営やビジネスの第一線に立って活躍されている方ほど、陽明学に魅力を感じているようです」(12 頁)と守屋さんが記すほか、孔子『論語』や孫子の『兵法』がビジネス思考と関連付けて論じられることも多く、中国思想にはビジネス・経営との親和性が高いものが多々あります。

今日において王陽明と陽明学は、孔子や孫子の教えに比べるとマイナーな部類に属していますが、日常生活に向けたマインドセットとして参考になる部分も多くあるほか、本書は中国思想の古典に触れる契機にもなると考えられます。

(文：鈴木 真吾)

Chiyoda City, Uchisaiwaicho 内幸町

天高く馬肥ゆる秋、皆さまには穏やかにお過ごしのことと推察申し上げます。

さて、弊社はこの度ご縁あって東京オフィスを丸の内から内幸町の帝国ホテルタワーに移転いたしました。私事で甚だ僭越ではございますが、自身の社会人生活のうち、約 30 年近くを大手町近辺で過ごしたものですから、内幸町勤務ということに非常な新鮮さを覚えいささか浮かれております。（もっとも、丸の内からは有楽町を挟んで 2 つ隣町と極めて至近なのですが…）そこで今回は「内幸町」について少し掘り下げて調べてみようと思います。

江戸時代、この「内幸町」の辺りは大名屋敷が建ち並ぶ武家地だったため、町名は無かったそうです。武家地は外濠（現在の東京高速道路 KK 線）や水路で囲まれており、町域の北側の外濠には山下橋が、南側には幸橋が架かり、合わせて山下御門、幸橋御門が設置され厳重に警備されていたようです。なお、山下御門の跡地付近（JR 山下橋架道橋下）には、千代田区による山下門跡の説明板があります。幸橋御門跡地付近（第一ホテルの辺り）には生憎何も見当たらないのですが、近くの日比谷公園の南側にある中幸門の門柱には、「以幸門舊礎建造 明治三十五年六月」とあり、読み下すと（幸橋門の旧礎を以て建造する）すなわち、幸橋御門の基礎が使われ現在に至るまで残っているのです。

では、現在の帝国ホテルの敷地はどこのお屋敷だったのでしょうか。安政三年（1856）の絵図によると、陸奥白河藩阿部家の上屋敷だったようです。その南側、かつて鹿鳴館があった場所ですが、ここは薩摩鹿児島藩島津家の中屋敷でした。この島津家の黒門は、そのまま鹿鳴館の正門として使われ、鹿鳴館取り壊し後も残され戦前の国宝に指定されていましたが、昭和 20 年の東京大空襲により惜しくも消失してしまいました。この島津家の南西側に隣接した場所（現在の東京電力本社）は、肥前小城藩鍋島家の上屋敷、さらに南側の幸橋御門の前には、大和郡山藩柳沢家、日向飢肥藩伊東家、石見津和野藩亀井家の上屋敷が連なっていました。



この当時の風景は浮世絵にも描かれています。著名な浮世絵師歌川広重の「名所江戸百景 山下町日比谷外さくら田」は、山下町（現在の泰明小学校の辺り）から武家地（外桜田）の方を望んだ絵です。正面には、現在の日比谷公園の辺りにあった肥前佐賀藩鍋島家（先の肥前小城藩鍋島家に非ず）の大きなお屋敷と立派な赤門（将軍家の娘を正室として迎えた証）があり、遠景には富士山、左手前に門松が大きく入り込む、広重らしい大胆な構図です。この左手前の門松の枝に隠れて、ほんの少し見える板塀の建物が、恐らく陸奥白河藩阿部家の上屋敷であり、現在の帝国ホテル近辺となります。もしこの浮世絵をご覧になる機会がありましたら、目を凝らして門松の先の風景を感じ取っていただければと存じます。

時は下って廃藩置県後の明治 5 年（1872）、前述の阿部家、島津家、鍋島家の屋敷跡を合併して、内山下町 1 丁目（由来は山下御門より内側の山下町ゆえ）に、柳沢家、伊東家、亀井家の屋敷跡を合併して内幸町 1 丁目（同じく幸橋御門より内側の幸町ゆえ）として発足させました。その後昭和 13 年（1938）の区画整理で内山下町 1 丁目と内幸町 1 丁目の東側が合併して内幸町 1 丁目（西側は内幸町 2 丁目）となり、現在に至っています。

どうも地図がないと極めて解り難いですが、東京電力本社前の国会通り沿いに、千代田区による内幸町の町名由来の説明板があります。安政 3 年の絵図と現在の地図の対比や、上述した町名由来のくだりは、殆どこの説明板に依ります。また帝国ホテルの日比谷通り沿いの角にも「この付近の江戸時代」というかなり詳細な絵図付き説明板がございす。今回は当コラムに於いて珍しくフィールドワークを駆使したものと自負しております（？）が、百聞は一見に如かず、ご興味のある方は、是非かの地の説明板等をご覧いただくことをお勧めします。

江戸時代、諸々の有力大名の屋敷が連なっていた「内幸町」、当時の政治、経済の中心地のひとつであったことは想像に難くありません。そうした歴史ある地に恥じぬよう、今一度襟を正して業務に邁進する所存でございます。東京オフィスの移転後も変わらぬご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

（文：野口 智之）

Seminar Report 「幸福とは何か？ — 福田恆存の人間観と幸福観」

当社ではお客さまと社会に役立つ存在を目指し、経営哲学・理念の共有や、精神性の修養に努めるべく、外部講師をお招きしてのオフサイトセミナーを定期的に催しております。今回は京都大学経営管理大学院特定准教授 浜崎洋介先生にお越しいただき、「幸福とは何か？ — 福田恆存の人間観と幸福観」という演題でお話をいただいた第12回オフサイト研修(2026年9月4日)についてご紹介します。



第12回の演題は多彩な活動で知られる福田恆存^{つねあり}(1912-1994)について、『ハムレット』論をベースにした代表作『人間・この劇的なもの』(1956, 連載:1955-56年、『新潮』)と、同時期に執筆され、『人間〜』と同じテーマを雑誌『若い女性』の読者向けに噛み砕き、実践的アドバイスを論じた『私の幸福論』(1956, 連載:1955-56年、『若い女性』)の核となる章や、主要な論点の解説を交えながら、福田の提示する人間観や「幸福」の捉え方、自己との向き合い方や、自分が投げ入れられた状況についての捉え方に関するお話をいただきました。

福田恆存は1954年〜56年にかけての「平和論争」、進歩的文化人批判、国語改革批判などの活動によって、当時の論壇から「保守反動」というレッテルを貼られ、その言論活動や思想も色眼鏡で見られていましたが、生誕100年にあたる2012年頃から福田の思想についての再評価が起り、福田に関する著作が数多く刊行されるほか代表作の文庫版も復刊され、『私の幸福論』は今なおロングセラーとなっています。



レッテル貼りを嫌ったといわれる福田は、文芸批評家、思想家という肩書のほかに、英文学者、劇作家、演出家など多領域を横断的に活動しており、よく知られた業績としてはシェイクスピア作品の翻訳(新潮文庫の多くは福田訳)や、オスカー・ワイルドの『サロメ』(岩波文庫)や『ドリアン・グレイの肖像』(新潮文庫)などがあり、英文学者・翻訳家としての福田に馴染みがあるという方は多いと思われますが、今回は批評家・思想家としての部分について、福田再評価の先達である浜崎先生にお話をいただく貴重な機会となりました。

『人間〜』に関する前半部では、「何をしてもいいが、何もしなくてもいい」という、宿命を失った自由な近代人の長所を劇中のハムレットが置かれた状況に見出し、宿命を受け入れたり「すべきことなす」ことの重要性が説かれ、悲劇(tragedy)は主人公の「幸福な生き方」(宿命に殉じたり、勝算がない状況でも己の流儀を貫く)に触れることで、観客はカタルシスを感じることや、『私の幸福論』に繋がる要点について教授いただきました。

『私の幸福論』では最終章「快楽と幸福」を軸に、短所は克服するのではなくそれを素直に受け入れる事(宿命・現実と向きあうこと)が長所や人を惹きつけるユーモアに繋がることや、筋を通すような「自分の流儀」を確認し実行すること、偶然に被投された状況(生まれた国・場所、生得的な要素、他者や物事など)とのカップリングを宿命として受け入れることが人間的な「幸福」や成熟に繋がることなど、現在の日常生活にも援用可能な実践的観点についての解説をいただきました。

(文: 鈴木 真吾)

東京オフィス移転のお知らせ

当社東京オフィスは、2026年10月13日より帝国ホテルタワーに移転いたしました。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

5 バリュースセット株式会社 金融商品仲介事業者 近畿財務局長(金仲)第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、およびIFA口座をお申し込みいただいた方に送付しております。送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発信者: 5 バリュースセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー 14F

newsletter@5valueasset.com